

(様式5) 事後評価総括表

番号	事業名	市町村名	ふりがな 箇所名	事業概要				評価ランク				部(課)の取組方針		県の自己評価	担当課	
				事業目的	事業内容	事業期間	全体事業費 (千円)	費用 対効果	① 事業 効果 の 発 現 状 況	② 自 然 環 境 等 の 変 化	③ 施 設 の 維 持 管 理 状 況	④ 地 域 住 民 等 の 評 価	【評価の視点】 ①事業効果の発現状況 (直接的効果、間接的効果) (事業の主たる目的以外での 地域社会への貢献状況) ②事業実施による 自然環境・生活環境等の変化 ③施設の維持管理状況 ④地域住民等の評価			今後の取り組み及び同種事業への活用と課題
					上段:当初	上段:当初	上段:当初	上段:当初								
1	地すべり 対策事業	佐久市	こまごめ 駒込	平成18年7月豪雨の影響により、地すべりブロックの沈下が顕著となり、主要地方道下仁田浅科線の通行規制を余儀なくされた。活動中の地すべりにより下流の人家や道路に甚大な被害が及ぶ恐れがあるため、早急に地すべり対策事業を実施し民生の安定を図りたい。	集水井工 7基 集水・横ポーリング工 L=10,500m 銅管杭工 78 本 ほか	H18~H23	800,000	1.4	B	B	B	A	①地すべり発生時、県道が全面通行止めとなったが、地すべり対策工事により本線の安全が確保された。 ②集水井は地下構造物であるため、地表における自然環境の維持に寄与している。 ③地域住民には、側溝清掃の協働作業等お願いしている。 ④災害発生後、地元説明、安全パトロールの実施、計測機器の設置等、迅速に対応してもらった。早期に対策工事を実施していただき、地域の安全安心が確保された。	○段階的に調査を行うことによって、対策工の効果が発揮されているか確認し、より効率的な事業を進めていく。 ○集水井工を行うことにより、周辺井戸の枯渇問題が発生した。同種事業に対して、今後の対策工実施の際の検討材料としたい。(事前の住民に対する詳細な説明が不可欠)	事業目的を概ね達成	砂防課
					集水井工 5基 集水・横ポーリング工 L=11,300m 銅管杭工 49 本 ほか	H18~H23	1,006,000	1.1								
2	雪崩対策	小谷村	さとみ 里見	当該箇所は特別豪雪地帯に指定されており、表層雪崩がたびたび発生していた。雪崩の到達区域には多くの宿泊施設及び民家が立地しており、雪崩災害の危険にさらされている。このため、雪崩対策工事を実施し、民生の安定を図りたい。	雪崩予防柵工 L=809m	H14~H20	620,000	2.9	B	B	B	A	①対策工事完了後雪崩の発生はない。 ②工事影響範囲の緑化を図ったことにより、現在は従前の植生が回復されている。 ③姫川砂防事務所でもパトロールを実施している。また、冬期間はスキー場管理者による巡視を行っており、変状が確認された場合は迅速に連絡が入る体制になっている。 ④雪崩対策工事実施後、雪崩の発生は確認されておらず、高い評価を得ている。	○ 当地区は特別豪雪地帯であり、雪崩災害への関心も高い。施設効果が上がることにより、雪崩対策事業の必要性が住民から認知されている。 ○ 今後も災害に強い地域づくりを推進するため、施設整備とあわせて、異常時の情報伝達体制の強化等ソフト対策の充実も図りたい。	事業目的を概ね達成	砂防課
					雪崩予防柵工 L=1075m	H14~H23	832,944	2.2								
3	県営ため 池等整備 事業	茅野市	すべり たいら 須栗平	ため池を改修することで、漏水防止による用水の安定供給、決壊等による災害の未然防止、維持管理の軽減を図り、地域農業の安定生産の向上と農村環境の保全を進める。	ため池改修工 1箇所	H21~H23	110,000	7.4	A	A	A	A	①堤体を改修したことにより、漏水に起因する決壊等の危険性がなくなり、生活の安全、安心が確保されるとともに、農業用水の安定供給が図られた。 また、冬期の防火用水の安定供給が可能となり、地域の防災効果が向上。 ②自然環境へ配慮したため池整備を行うとともに、他事業にて周辺の公園整備が実施され一体的に自然環境が向上した。 ③非農家も含め、維持管理作業に参加している。 ④漏水による決壊等の不安がなくなり、また、農業用水の安定供給が図られ、住民の評価は高い。	今後、ため池の耐震対策を含めて推進していく必要がある。 農家の高齢化も進み、維持管理が容易な施設を検討していく必要がある。	事業目的を達成	農地整備課
					ため池改修工 1箇所	H21~H23	99,500	7.4								

(様式5) 事後評価総括表

番号	事業名	市町村名	ふりがな 箇所名	事業概要				評価ランク				部(課)の取組方針		県の自己評価	担当課	
				事業目的	事業内容	事業期間	全体事業費 (千円)	費用 対効果	① 事業 効果 の 発 現 状 況	② 自 然 環 境 等 の 変 化	③ 施 設 の 維 持 管 理 状 況	④ 地 域 住 民 等 の 評 価	【評価の視点】 ①事業効果の発現状況 (直接的効果、間接的効果) (事業の主たる目的以外での 地域社会への貢献状況) ②事業実施による 自然環境・生活環境等の変化 ③施設の維持管理状況 ④地域住民等の評価			今後の取り組み及び同種事業への活用と課題
					上段:当初	上段:当初	上段:当初	上段:当初								
4	復旧治山	辰野町	だびじり 大白尻	平成18年7月の豪雨により、大量の土砂が下流人家、農地に流出したため、谷止工を施工し、溪流内に残存する不安定土砂を固定し、流出の防止を図る。	谷止工6個 床固工4個	H21~H23	185,000	3.5	B	B	A	A	①森林の水土保全機能の向上及び保全対象の安全が図られた。事業完了後も豪雨を経験したが、災害は発生していない。 ②森林の持つ環境保全機能が回復しつつあり、自然環境の維持・向上に寄与している。	○平成25年度~26年度に、長野県内の民有林全域で航空レーザ測量を実施した。崩壊跡地、地すべり地形などの山地災害危険度の高い箇所や、既存治山施設の位置、土砂堆積状況などが把握可能となるため、測量結果を解析し、災害に強い森林づくりを進める。 ○平成29年度に、インフラ長寿命化対策に向けた既存施設の点検調査を行うことにより、流域内に存在する治山施設の補修等に取り組んでいく。	事業目的を概ね達成	森林づくり推進課
					谷止工6個 床固工4個	H21~H23	184,496	3.5								
5	水源地域 等保安林 整備	木曾町	にしほら 西洞	H16台風23号により、西洞川の各支流から多量の土砂と汚濁水が流出し、用水路・県道を埋没し、黒川ダムにも流入し堆積した。直接被害が無いが、被害を受けた県道、用水路の復旧工事が先行した。しかし現在も多量の土砂が溪流に堆積し、今後の豪雨により再び下流への被害が懸念され、地元からの要望が高まってきた。 また、本地籍は黒川地区(800人)の水源で、下水工事がH17年度から実施され、更に水の需要が増大することが予想されることもあり水源地域整備が必要となってきた。	森林整備 450ha 谷止工 9基 床固工 1基 流路工 75m	H19~H23	240,000	2.0	B	B	B	A	①森林の土砂流出防止機能の向上及び保全対象の安全が図られた。事業完了後も豪雨を経験したが、災害は発生していない。	○平成25年度~26年度に、長野県内の民有林全域で航空レーザ測量を実施した。崩壊跡地、地すべり地形などの山地災害危険度の高い箇所や、既存治山施設の位置、土砂堆積状況などが把握可能となるため、測量結果を解析し、災害に強い森林づくりを進める。 ○平成29年度に、インフラ長寿命化対策に向けた既存施設の点検調査を行うことにより、流域内に存在する治山施設の補修等に取り組んでいく。	事業目的を概ね達成	森林づくり推進課
					森林整備 168ha 谷止工 9基 床固工 4基 流路工 62m	H19~H23	256,267	1.9								
6	総合流域 防災	飯田市	いちしんどがわ (一)新戸川 しいぬま 飯沼	当河川沿線では商業地や住宅地が広がっており、宅地化が著しい地域であることから、当事業区間における浸水被害を防止するため、流下能力不足を解消し、治水安全度を向上するものである。	護岸工 L=140m	H18~H23	500,000	13.5	B	B	A	A	①流下能力の増加により治水安全度が向上し、浸水被害が防止された。 ②自然に配慮された工法により、植生の回復を確認することができた。 ③地元自治会によるゴミ拾いや草刈りの活動がある。 ④アンケート結果によると、「豪雨時に安全と安心が得られた」という評価を多くの地域住民から得た。	本事業における自然に配慮した工法の選定は効果が表れている。同種事業の実施にあたっては、今後とも環境に配慮した整備を行う必要がある。ただ、維持管理面で草刈りやゴミ拾いが大変という声もあるため植生部分の範囲、勾配や河床部の構造について引き続き検討をしていく。	事業目的を達成	河川課
					護岸工 L=140m	H18~H23	362,500	18.6								

(様式5) 事後評価総括表

番号	事業名	市町村名	ふりがな 箇所名	事業概要				評価ランク				部(課)の取組方針		県の自己評価	担当課	
				事業目的	事業内容	事業期間	全体事業費 (千円)	費用 対効果	① 事業 効果 の 発 現 状 況	② 自 然 環 境 等 の 変 化	③ 施 設 の 維 持 管 理 状 況	④ 地 域 住 民 等 の 評 価	【評価の視点】 ①事業効果の発現状況 (直接的効果、間接的効果) (事業の主たる目的以外での 地域社会への貢献状況) ②事業実施による 自然環境・生活環境等の変化 ③施設の維持管理状況 ④地域住民等の評価			今後の取り組み及び同種事業への活用と課題
					上段:当初	上段:当初	上段:当初	上段:当初								
7	道路改築	飯山市	(国)292号 とみ倉バイ パス	現道は急峻な谷地形に沿って狭隘で線形が悪く、大型車輛のすれ違いに支障を来していた。また、豪雪地帯であるため、冬期においてスリップ事故・雪崩・落雪等による通行障害も発生していた。 地元住民の唯一の生活道路の交通が脅かされていたため、抜本的な対策としてバイパスを計画した。	L=3,910m W=6.5(9.75~11.75)m	S60~H20	5,489,000	1.4	B	A	B	A	①バイパス整備により安全な交通が確保され、また市街地等へアクセスが向上し利便性が向上している。 ②積雪時期の交通が安定し、冬期の生活環境が大幅に改善している。 ③整備により、除雪作業性が大幅に向上している。 ④安全な交通が可能になった点と利便性が向上した点が高く評価されている。	○冬期間工事ができない地域であり、かつ地すべり地帯での工事であることから時間を要したため、自然環境に合わせて工程を検討する必要がある。	事業目的を達成	道路建設課
				L=3,910m W=6.5(9.75~11.75)m	S60~H23	5,489,000	1.4									
8	街路事業	伊那市	さかい 境	竜東線は、環状北線と環状南線(通称ナイスロード)を結ぶ伊那市内の南北主要幹線道路である。また、当該区間は、伊那市街地に位置し、小学校や保育園などの公共施設が隣接しているが、歩道が未整備であり、歩行空間の改善が求められていた。 当該区間の整備を行い、伊那市内の円滑な交通の確保および、まちなかの健全な都市環境の確保を図る。	拡幅改良工 L=545m W=7.0(16.0)m	H21~H25	1,200,000	2.0	B	A	A	A	①事業効果の発現状況(直接的効果) ・交通量が増大しているにもかかわらず、円滑な交通を確保している。 ※伊那BPの一部供用に伴い、伊那市内の南北方向の交通が分散化している。 ・歩道と車道の分離により、安全な歩行空間が確保された。 ①事業効果の発現状況(間接的効果) ・拡幅により道路空間が確保され、沿道環境が向上し、歩行者が歩きやすい道路となった。 ②事業実施による自然環境、生活環境等の変化 ・街路樹の整備により、都市緑化が図られ、沿道環境を整備することが出来た。 ・歩道の整備、道路の拡幅に伴い円滑な交通が確保され、自動車の排ガスによる影響が改善されていると考えられる。 ・住民意見として、景観や環境が良くなったという意見が多数寄せられた。 ③施設の維持管理状況 ・植栽および道路の維持管理については、道路パトロール等で適宜実施している。 ④地域住民等の評価 ・散歩が安心して出来るようになった。 ・通学の子供達が安心だと思ふ。 ・歩道が広くて歩きやすく、足が悪い家族が気持ちよく歩けると喜んでいる。 ・車を運転していても、歩行者を気にせず運転出来る安心感があり良いと思ふ。 ・補車道が分離されて、自動車がスピードを出して走行している。重大事故が心配。	・植樹帯の活用においては、地元の意見を汲み取りながら検討する必要がある。 ・今後、市街地の街路整備においては、可能な限り無電柱化を図り、景観や防災機能の向上を図る必要がある。 ・周辺の道路(市道)を併せて施工すると、より効果的となる。	事業目的を達成	都市・まちづくり課
					拡幅改良工 L=545m W=7.0(16.0)m	H21~H25	933,412	3.5								

(様式5) 事後評価総括表

番号	事業名	市町村名	ふりがな 箇所名	事業概要				評価ランク				部(課)の取組方針		県の自己評価	担当課	
				事業目的	事業内容	事業期間	全体事業費 (千円)	費用 対効果	① 事業 効果 の 発 現 状 況	② 自 然 環 境 等 の 変 化	③ 施 設 の 維 持 管 理 状 況	④ 地 域 住 民 等 の 評 価	【評価の視点】 ①事業効果の発現状況 (直接的効果、間接的効果) (事業の主たる目的以外での 地域社会への貢献状況) ②事業実施による 自然環境・生活環境等の変化 ③施設の維持管理状況 ④地域住民等の評価			今後の取り組み及び同種事業への活用と課題
					上段:当初	上段:当初	上段:当初	上段:当初								
9	防災・安全交付金 (修繕)雪寒・凍雪 害事業	(国)40 6号 須 坂市	やま かみ 山の神	当該区間は県内有数の観光地でもある菅平高原へのアクセス道路であり、積雪の多い冬期においてもスキー客等の利用により交通量が多い。 しかし、道路幅員が狭いため、除雪により路肩に寄せられた雪が車道の一部を塞ぎ、車両の通行に支障をきたしている状況である。 本事業により堆雪帯を設置し、冬期の安全で円滑な冬期交通の確保を図ることを目的としている。	堆雪帯設置工 L=460m W=6.0(9.5)m	H20~23	350,000	-	B	B	B	B	<p>(今後の課題)</p> <p>①堆雪帯の設置により、積雪時の車道の有効幅員が確保されるとともに、大型車の立ち往生抑制効果がみられた。また、通行止めリスクが減少し、道路の信頼性向上につながった。</p> <p>②谷側へ設置した土留構造物は、河川への影響を小さくするため、垂直擁壁を採用している。</p> <p>③道路が広がったことにより、大型の除雪ドーザー等による除雪作業が、容易となった。</p> <p>④見通しが良くなり、大型車のすれ違いもスムーズになった。その反面、スピードを出しやすくなった。</p>	<p>(課題)</p> <p>道路の拡幅により、通行車両がスピードを出しやすくなったことから、速度抑制などの対策を併せて検討することが必要である。</p>	事業目的を概ね達成	道路管理課
				堆雪帯設置工 L=460m W=6.0(9.5)m	H20~25	346,372	-									
10	県営畑地 帯総合土 地改良事 業	松本市	やま べ 山辺	老朽化が著しく、安定した取水や維持管理に多大な費用と労力を要していた畑地かんがい施設を改修し、農業生産性の向上や品質向上を図る。また、傾斜地営農の大きな支障となっている通作・農産物輸送を改善するための農道を整備し、農業経営の安定化を図る。	農道 L=3650 m 畑地かんがい 施設 59ha	H12~18	1,860,000	1.1	B	A	A	A	<p>地域からの申請に基づき新設・更新された各施設により、中山間地域における傾斜農地の営農が継続されている。また、整備された各施設も適切に管理されている。</p>	<p>今後も本事業区域で安定して営農を維持・継続していくためには、地域の意向を踏まえながら一層の農業経営の合理化・効率化も検討していく必要がある。</p>	事業目的を達成	農地整備課
				農道 L=3650 m 畑地かんがい 施設 59ha	H12~23	1,589,186	1.5									